

第11期火災調査科を実施しました

[期 間] 令和7年7月28日（月）から8月7日（木）まで

9日間（72時間）

[会 場] 埼玉県消防学校

[到達目標] 火災原因調査に係る専門的知識及び技術を修得し、これらの知識を適切に活用して、火災調査業務を的確に遂行できる。

[教育対象] 火災調査業務に従事している者又は従事させようとする者

[修了者] 26消防本部（局）64名（平均年齢37.3歳）

埼玉県消防学校 校訓

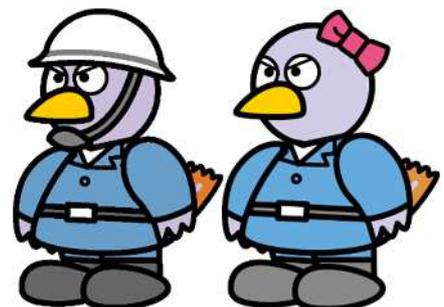
使命自覚 規律厳守 自己啓発

第11期火災調査科の目標

見て!触れて!**体感・実感**しよう!

知識・技術を**アウトプット**しよう!

チームで悩み、出火原因を**究明**しよう!



第11期火災調査科日課表

埼玉県消防学校

月日 曜日	第1時限 8:30~9:20	第2時限 9:20~10:10	第3時限 10:20~11:10	第4時限 11:10~12:00	第5時限 13:00~13:50	第6時限 13:50~14:40	第7時限 14:50~15:40	第8時限 15:50~16:40
7月28日 (月)	行事その他	原因調査関係法規			調査書類			
	入校式	火災調査概論			調査書類作成要領			
	担当教官	埼玉県南西部消防局講師			川口市消防局講師			
7月29日 (火)	調査書類				損害調査			
	質問調書作成要領・写真撮影要領				損害調査要領			
	埼玉西部消防局講師				埼玉東部消防組合消防局講師			
7月30日 (水)	原因調査				原因調査			
	実況見分要領				微小火源			
	川越地区消防局講師							
7月31日 (木)	原因調査			原因調査			原因調査	
	車両火災			ガス機器安全装置の原理・構造等			燃焼機器	
	草加八潮消防局講師			東京ガス株式会社講師			草加八潮消防局講師	
8月1日 (金)	原因調査				原因調査			
	現場の進め方				製品鑑識要領			
	消防庁消防大学校 消防研究センター講師							
8月4日 (月)	原因調査		調査実習					
	警察が行う火災捜査		電気火災実験					
	埼玉県警察本部講師		さいたま市消防局講師					
8月5日 (火)	調査実習							
	鑑識実習							
	さいたま市消防局講師							
8月6日 (水)	事例研究				事例研究			
	鑑識実習討議				鑑識実習発表			
	さいたま市消防局講師							
8月7日 (木)	効果測定	事例研究			講話			行事その他
	効果測定	訴訟事例			事例講話（火災事例）			修了式
	担当教官	ブラッサ法律事務所弁護士			埼玉東部消防組合消防局講師			担当教官

写真撮影（建物）実習



写真撮影（製品）実習



微小火源（紙タバコ）実験



微小火源（紙タバコ）実験



車両火災実験



ガス燃焼機器講義



石油燃焼機器実験



石油成分検知実習



現場図板作成実習



リチウムイオン電池鑑識実習【※】



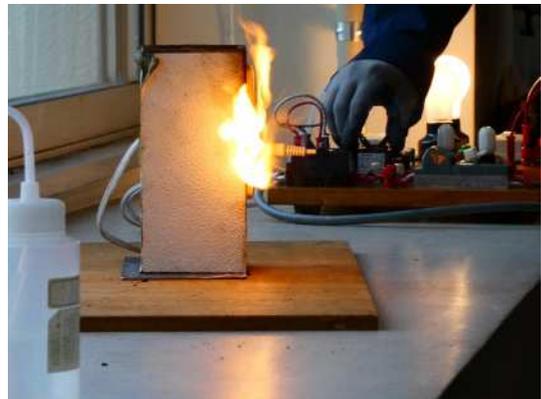
リチウムイオン電池（展開状況）

焼損したリチウムイオン電池（展開状況）



電気火災実験（短絡現象）

電気火災実験（トラッキング現象）



鑑識実習（電気機械器具等の焼損物）

鑑識実習討議・発表



※安全に配慮し、リチウムイオン電池を分解しています。危険ですので、絶対にまねしないでください。

越谷市消防局 **山口 忍** **消防司令** * 総代

修了しての感想

火災調査は、火災原因調査及び火災損害調査に着手しなければならない消防の義務であり、類似火災を起こさないように火災予防に努めると学びました。

講義や実習を通じて、分隊内で意見を交わし合う中で、自分にはない考え方やアプローチに触れることができました。

研修で得た知識を実務の中で、自分自身の成長に繋げていきたいと思います。



後輩へのメッセージ

研修期間を振り返ってみると、あっという間ではありましたが、非常に濃密で、充実した学びの時間だったと感じています。

所属ではできないような実習を体験でき、学ぶことができます。自分自身の成長を意識しながら学んでいただきたいと思います。

埼玉西部消防局 **三石 新一** **消防司令補** * 副総代

修了しての感想

火災調査科を修了して、火災現場の痕跡が持つ意味を読み解く重要性を学ぶことができましたと感じています。また、燃焼実験や模擬現場での鑑識作業、昨今のニュースで見るリチウムイオン電池を使った製品鑑識は強く印象に残った実習でした。本科での座学及び実習で得た知識と技術を実務で活かし、火災原因の特定、そして、類似火災を防ぐ再発防止の役割を担えたらと思います。



後輩へのメッセージ

火災調査に向いているか心配しなくても大丈夫です。「なぜ火災が起きたのか」という探究心こそが、最も大切だからです。火災件数が減少傾向にあり、火災調査の機会が少なくなっている現状がありますが、どんな小さな火災からも探究心をもって経験を重ねてください。

この9日間は専門知識を体系的に学べる貴重な時間です。各消防本部(局)の仲間と互いの探究心を高めあってください。